

たゆまなく躍進する全国組織

NEP工業会

New
Engineering
Progressive

- 東京セメント工業株 ☎03(3263)7788
- 株常盤コンクリート工業所 ☎0488(73)7171
- 館山コンクリート株 ☎0470(22)1589
- 株日東 ☎0492(83)5181
- 株武井工業所 ☎02992(3)2196
- 利根コンクリート工業株 ☎0471(29)4421
- 同和コンクリート工業株 ☎0487(46)7721
- 大丸コンクリート株 ☎0423(62)4070
- 富士コンクリート工業株 ☎0422(53)1221
- 住建コンクリート工業株 ☎03(357)0371
- 茨城中央コンクリート工業株 ☎02967(7)1135
- 富士コンクリート工業株 ☎0276(82)2227
- ヨシコン株 ☎05462(2)0641
- 日本コンクリート株 ☎052(793)1151
- スギヤマコンクリート株 ☎052(761)5356
- 株丸治コンクリート工業所 ☎0572(22)6175
- 柘植コンクリート工業株 ☎0592(32)2555
- 株ネオジオ ☎0596(22)1285
- トクコン株 ☎05372(6)2221
- 淀コンクリート工業株 ☎06()18
- 京阪コンクリート工業株 ☎075(63)3231
- 阪神工業株 ☎07946(7)0280
- 阪和コンクリート工業株 ☎0722(41)1667
- 双和コンクリート工業株 ☎0773(23)0331
- 日進コンクリート工業株 ☎07442(2)6641
- 光コンクリート工業株 ☎0775(87)2101
- 株清水組 ☎0795(32)3250
- 加西コンクリート株 ☎07904(8)2661
- 中国コンクリート工業株 ☎08675(2)1141
- 出雲コンクリート工業株 ☎0853(23)2633
- 山陽ブロック工業株 ☎082(293)1020
- 藤田建材工業株 ☎0829(21)1121
- 長尾コンクリート工業株 ☎0878(31)1695
- 日本コンクリート工業株 ☎0899(64)2193
- 株カンケン ☎0875(25)3427
- 富士建設工業南 ☎0886(42)1477
- 日本興業株 ☎0878(31)2828
- 株丸コン ☎092(741)5731
- 大建コンクリート株 ☎0977(24)5411
- 協立コンクリート工業株 ☎096(293)4332
- 不二高圧コンクリート株 ☎096(356)8585
- インフラテック株 ☎0992(23)9911
- 沖縄建設工業株 ☎0988 081
- 株沖坤 ☎0980 2188
- 不二コンクリート工業株 ☎0954(23)3168
- 大建コンクリート工業株 ☎092(771)6211
- 仙台コンクリート工業株 ☎022(241)5111
- 盛南コンクリート工業株 ☎0196(36)0320
- 吉田セメント工業株 ☎0242(27)4328
- 東栄コンクリート工業株 ☎0236(43)1144
- 若松コンクリート株 ☎0186(55)0181
- 東成産業株 ☎0198(24)5311
- 沖田コンクリート株 ☎01255(4)1255
- 株鋼商 ☎01452(5)3111
- 日本高圧コンクリート株 ☎011(241)7101
- 永井コンクリート工業株 ☎0257(47)2331
- 株高見澤 ☎0257(47)2331
- 株ミルコン ☎0776(54)0171
- 株ケンチ ☎0766(52)0113

技術指導

- 株建設企画コンサルタント ☎06(441)4613
- 原田株 ☎03(3494)2331

事務局

〒613 京都市伏見区淀本町225 (法面コンクリート工業所内)
☎075(632)0840

NEP

REPORT

エヌ・イー・ピー レポート

Vol.3



21世紀への創造

たゆまなく躍進する全国組織

NEP工業会

—随想—

仕上げ

週休の2日を東京で過ごし、子供の時からごぶさたしている多摩川べりを歩こうかと思っていた矢先、工業会から原稿依頼をいただき、予定を変更して神田三省堂へ足を向けた。その2階の「照らす(テラス)」というレストランで「老是(ロゼ)」を傾け、反省を重ねながらペンを走らせる。

三省堂の辞書を調べたわけではないが、表題の「仕上げ」とは、1つは「完成」を意味がありそうだ。建物を例にとれば、仕上げと同様に基礎も床も柱も梁もそれぞれが重要なのだが、仕上げ工事を基礎の段階でやるわけには行かないという意味である。

「仕上げ」を完成と解釈する場合、派生して2つの課題が残る。1つは、仕上がった途端にその先は下り坂になるという事である。新築家屋は成ったその日からあばら屋への方向を辿る、その下り勾配を極力緩くする努力が維持管理である。したがって仕上げるよりは礎石(いしづえ)段階の方がその後の成長性がある。

2つ目は、仕上げには初級・中級・上級があって、望みを高く持つと何時まで経っても仕上がらないという問題がある。俳句や書道に例えればわかりやすい。道楽にしても私などは、酒は正体不明になった。験がないから「仕上がった」ことにはならない。麻雀にしても「麻雀放浪記」にはいま一步とどいていない。「女」に到っては出発していないに等しいのである。

若い時、会社を創めてから早や21年になる。当時は社長を20年位やろうかと心に決めていた。設計変更は金にしても工期にしてもプラスマイナス1割を越えたら当初計画がズサンであると信じているので、私の任期のタイムリミットは目前に迫っている。「自己世代中心主義」というのも私の趣味に合わない。何年経っても、その都度「まだまだ元気だから続けるヨ」といった自分本位の思想である。

というわけで、私の社長業は今「仕上げ」の段階に入っている。だが、会社を俺の力で完成させようとか、やり残した事を済ませてからといった不遜な

気持は持っていない。殆んどの事柄が明日の発展を念じながらの次世代への「先送り」となる。せめてその中の10%でも、これだけは自分の力で完結したと思いたい気持もあるが、多分その中味は駆け出し企業時代の低次元の仕上げであって、過ぎ去った一里塚としては認めてもやがて過去の遺物と化すであろうことは間違いない。将来のそんな状況こそが会社進展の証拠でもある。

還暦の思想がそれに似て、60才を越えても生きているので、子や孫の後続部隊を違った角度から眺めることになるが、自分が完結したと思っている前記10%分は還暦時点で消滅する。しかし不思議なことに、その時になって零点からスタートする異質のテーマが心の中から湧き上って来るのである。それは還暦年令にふさわしいネタであるが、明日へ向かう新鮮なネタでもある。

工業会が20周年を迎えた。昔の事を思い出すと、私にとっては工業会の歴史と自分の会社の社史とがダブって脳裏を走る。かつてある創立総会の席で乾杯に立った大先生が、創めるのはやさしいが継続発展させるのは容易でない、と言っていたが本当にそう思う。そして、時代の流れ、卒業生と新入生、永遠の集団における「仕上げ」の意味は、明日の発展を祈る次世代への先送りの思想と全く一緒のように思うのである。

次頁に続く

株式会社
建設企画
コンサルタント社長

NEP工業会顧問
福住隆二



第20期 総会報告

(平成3年度)

[平成3年6月13日]

NEP工業会の第20期総会が、平成3年6月13日、福岡・西鉄グランドホテルで開催されました。長谷川梅太郎会長より、発足当時の状況、20年の歩み、また同志会員の共通のメリットの一層の追求を目指すとの挨拶がありました。続いて各部長より、平成2年度の事業報告がなされました。そして役員留任が議決されました。但し営業部長及び技術部長は各々下瀬博貴氏(株九コン 代表取締役)より黒川信夫氏(株ミルコン 代表取締役)へ渡辺邦昭氏(東京セメント工業株 取締役)より福村敏男氏(インフラテック株 取締役)へ引き次がれました。又新入会員として、群馬県の富士コンクリート工業株(伊藤宏 代表取締役)が承認され、会員数は59社となりました。そして平成3年度の事業計画案、予算案が承認され総会は終了しました。

懇親会は和気合々、又アトラクションのマジックショーには、出席者全員度肝を抜かれました。翌日は、佐賀県下吉野ヶ里遺跡見学等の観光、福岡カンツリー倶楽部和白コースでの親睦ゴルフコンペが催されました。

尚、懇親会の席にて有志より「雲仙・普賢岳噴火災害」にお見舞いの提案があり、会員社に呼びかけたところ、35社より150万円におよぶ義援金、217点の見舞品が寄せられました。義援金は、京都新聞社を通じ、見舞品は島原市の災害対策本部に送られました。



1991年(平成3年)7月13日 水曜日

善意の小箱 10日

◇雲仙被災者救援義金
【百五十万円】京都市伏見区淀本町、NEP工業会
||長谷川梅太郎会長(コンクリート二次製品業界の全国三十五会員社よりの義)

春季合同部会報告

[平成3年4月18・19日]

恒例の春季合同部会は、平成3年4月18日、19日の両日新神戸オリエンタルホテル会議室、神戸国際会館会議室で開催されました。下瀬営業部長、渡辺技術部長の挨拶のあと、今回も98名の参加者が熱心に研修に励み、又熱い討議がなされました。事例発表では、

「生産性」出雲コンクリート工業株 鎌田氏

「時短」日木興業株 細川氏

「C1」インフラテック株 堀之内氏

の発表が我々業界の先端をいく事例として、興味をひきました。又地元会員社の阪神工業株衣笠氏より活発な地方行政を行う神戸市役所(開発局)の事業内容をビデオを交えて紹介していただきました。



新神戸オリエンタルホテル

新技術部会長としての抱負

新部会長挨拶



技術部会長
福村敏男

平成3年第20期より渡辺部会長の後任として技術部会長を引受ける事になりました。今日まで活発な活動を続けて下さった渡辺様に御礼申し上げます。引継ぎに当り一部の不安もありますが事業計画に基づき皆様方の御協力を得ながら邁進してまいります。よろしく御支援下さいますようお願い申し上げます。

第20期事業計画

『21世紀へ向けての創造』

1. 新生産体制、新技術の導入への調査研究
2. 景観商品の製造方法の研究
3. 秋季、春季(研修会)
4. 海外コンクリート製品事情の勉強

今後構造的な人手不足を前提として企業が生き延びるには、労働時間の短縮が最大の課題の一つであります。この労働時間の短縮を進めるには時間当りの労働生産性の向上を合理的に進め、政策的な経営改善をハード面、ソフト面の両面で行なう必要があります。NEP工業会59社は共通の悩み又様々なノウハウもあり同じ二次製品メーカーとして本音でディスカッションする事により「新生産体制」各社なり得るものがあり新製品等においても地域性により

様々な製品も開発蓄積されています。それも互いに交換し提供し合いよりよい製品開発を進めNEP工業会ならでの製品導入も取り組んでまいります。

現在若い人の労働者不足。労働時間短縮。社内の体質改善。商品開発。さまざまな課題をかかえながらどのようにして取り組むか、共通のメリットを研究し話し合えるのが、NEP工業会でありこの会を有効に活用し各社に大きな収穫となる事を願います。

会員各社に絶大なる御支援をお願いし就任の挨拶と致します。



新営業部会長としての抱負

新部会長挨拶



営業部会長
黒川信夫

NEP工業会が発足して第20期目を迎える迎える節目の平成3年度に、下瀬博貴前会長の後を引き継ぐことになりました。黒川でございます。

浅学非才な私でございますが、一期一会の気持ちで鋭意努力致しますので、御指導、御協力の程よろしくお願い申し上げます。

私は、下瀬博貴前営業部長が長きに渡りNEP工業会営業部会の発展に精進され、全国屈指の結束

力と評されるグループに成長させ、情報を収集分析研究する勉強会、研修会に多大な成果を上げていただいたことに、深く感謝を申し上げますとともに所信の一端を述べさせていただきます。

新営業部会長としての抱負

当期は、下瀬博貴前営業部会長の掲げた「21世紀へ向けての創造」のスローガンを継承して、営業部のテーマとして

- その1 情報収集のシステム化と情報交換の場づくり
- その2 景観商品の販売方法の研究
- その3 秋季・春季部会（研修会）の開催
- その4 海外コンクリート製品事情の勉強

以上4項目を掲げました。

当期は、10年間で総額430兆円の公共投資拡大目標の実施初年度を背景に建設投資の増加、中でも景観土木という新分野の社会的ニーズの景観商品も増え、更に、他産業の好況も反映して、我々の業界と同様建設業界では労働者不足や高化問題が顕在化しています。このため、建設工事の平準化、労働生産性の向上、施工の合理化などの対策を急がなければならぬ状況下にあります。コンクリート構造物の工場製品化や既存製品の大型化は、それらの対策として有効な方法であると思われま。

この様に、人手不足が故に要望される省人化、省力化製品として超大型化製品の研究、人手不足解消策としての労働者の定着化、雇用促進を計るための職場環境改善の研究、更に景観土木分野の景観商品の研究・開発・販売方法等の情報収集と情報交換の場づくりとして、ディスカッションを混えた勉強会の中で、他流試合もできる魅力のある合同部会として企画運営の努力をさせていただきます。

なお、超大型化製品の情報収集と調査を兼ねて、今般、住友商事様の御指導のもと、NEP工業会から福村技術部会長と私も同行させていただき5名で調査団をつくり、平成3年10月13日～平成3年10月26日まで、カナダ土木業協会1991年年次総会で発表された橋梁用や暗梁用の最大20mのスパンを持つプレキャストやコンクリート製の構造部材を使って行う新しいタイプアーチ構造物のTECHSPANプレキャストの導入のため、オンタリオ州M9W6H8レックスデール市のレインフォースト・アース・カンパニー・リミテッド他、施工現場に調査訪問をさせていただきます。この商品はコンクリート部材としての販売だけでなく、これを設計するにあたり地盤

中における応力の状況の解析を行うためには有限要素解析法を使う。このプログラムは英国のマンチェスター大学のイアン・スミス教授とスペインのサンタンデル・アンド・バルセロナ土木工科大学の協力を得て開発されたこのプログラムも合わせて販売できるセグメントアーチのTECHSPANプレキャストである。

この様に調査も入ることを報告させていただき、又、機会をみて結果報告をさせていただきます。

更に、経営者部会で平成4年春季に欧州をメインとした海外コンクリート製品事情の調査団の派遣の企画もある様で、これにも賛同させていただき、「21世紀へ向けての創造」のスローガンの2年目の営業部会は、一歩突っ込んだ企画運営をすることを御約束して私の抱負とさせていただきます。



兼六園

会員会社 訪問レポート

東栄コンクリート工業株
代表取締役
新田 泰三郎



暖冬の影響で例年よりも遅い秋化粧を始めた蔵王の山々。その蔵王への西の玄関口である山形市に本社をかまえる東栄コンクリート工業株を訪問する機会を得ました。コンクリート2次製品の工場とは思えないほどほこりの無い素晴らしい工場に新田泰三郎社長を訪れ、経営理念から始まり、グループの事、またギャラリー経営の事と多岐にわたってお伺い致しました。

まず東栄コンクリート工業株社の 沿革と概要についてお聞かせください。

昭和36年の創業ですので今年でちょうど満30年を迎えました。30年という筋目を何か思い出のあるものということで全社員シンガポール、バンコックへの海外研修旅行をし、皆んなで30年をお祝いしたところです。

創業当時は万年堀の製造と施工を手がけ、山形県の堀のバイオニアとして官民共にお引立てをいただきました。30年たった今でも第1号の万年堀が現存しており、それを見るにつけ創業当時のことが思い出されます。

現在は一般土木、農業土木の流し込み製品と建築用のPCカーテンウォールを主力としておりますが、これ迄には間知ブロックの生産や農業県としての位置づけから棚渠等の生産も手がけ需要にお応えしてきましたが時代の変遷と共に生産品目も大きく様変わりしてきております。

又創業当時と比較し、売上及び従業員で60倍強、資本金で120倍と本当に歴史の重みを感じているところです。

御社の経営理念についてお聞かせください。

当社の経営理念は「人間の幸福は人間のたゆまぬ努力によって築かれる。壮大な物質文明も拘らんにして深淵な文化もここに到達せしめた人々の精進と苦闘によって造られ人々に喜びを与えている。企業も理想と希望に満ちた組織体となし、創造力豊かに尊敬と感謝を要素として目標をたてて常に苦闘・協力・奉仕につとめるとき、はじめて繁栄が約束され、これに参加する人々の幸福がおとずれてくる。無限

の可能性を求めて進むことが人間の生き甲斐であり、これに寄与するところに企業経営の意義がある」としております。

人間としての無限の可能性を求めていく。又人間の創造力の発揮等、QC思想とも相通じるところがあり、S56年にTQC活動も導入しております。

つまるところ企業とは人間の集団であり、経営の真髄は人間を知り、人間を活かすことにあると考えております。

しかし、なかなか難しいですね。



PCカーテンウォール工場

会員会社 訪問レポート

素晴らしい整備された工場ですが、 工場経営の基本方針はなんですか。

ただ今申し上げました様に昭和56年にTQC活動を導入し、QC思想の普及教育をはかってきました。

毎年QCサークル活動が発表会を開催し、自主的に職場の改善を積み重ねてきました。こうした教育と活動の土壌を育てながら、加えて昭和63年「5S運動」を推進させました。

今、3K企業とか若者に魅力ある職場づくりとかいわれておりますが、当社もこれまでにいろいろ試行錯誤をくり返してきましたが、究極的には5S運動こそすべての基本と考えております。

品質、生産性、安全すべてにおいてこの5Sが関係しており、5S運動をグレードアップしていくことが、色々な問題を解決してくれることを信じ今後を強力に推進していくつもりでおります。



本社工場

先ほどの質問にも関係してきますが、 社員教育はどの様に行っているのでしょうか。

幹部管理者研修、一般社員研修、QC技術研修に区分し、千歳グループ合同教育、社外社内教育と年間計画をたてて実施しております。

この年間計画の実施についてはシビアに考えており、2ヶ月に1回実施の有無をチェックしております。これ迄の状況をみますと計画が実施されなかったということはないようです。

ただ教育の効果というのはすぐ期待出来るものではないですね。くり返し、くり返し、正に根気のいるものと考えております。

千歳グループについてお聞かせ頂きたいの ですが。(組織概要・規模・結合度等)

千歳グループの概要を説明しますと、11社で構成されております。建築専門、不動産・屋根外装工事、石材、緑化事業、損保事業、石材関係の輸出入業務、変わったところではそば処もあります。その他当社の子会社として運輸と型枠等のメンテナンス会社もかかえております。年商は合せて135億円といったところですよ。

それぞれの企業は県内No.1を目指しておりますが不動の位置を確保している企業、まだそこまで到達していない企業と様々です。

教育のところでも申し上げましたが、幹部管理者教育やQC教育等はグループ合同で実施しております。

又、社内報「広場」を発行しており、これが各社の情報交換やコミュニケーションの場になっております。

御社は文化活動にも力を入れているのでしょうか。

千歳グループ11社の心の拠所として製品置場の一角に小さなギャラリーをつくりました。

作品は千歳グループの総帥でもある千歳会長等の収集品を展示しております。

建築や造園、又最近ではコンクリート製品にも機能から景観性を求められており、この小さなギャラリーが社員の感性をみがく場として、又、物の豊かさと共に心の豊かさを求められている時代、文化は人間が真・善・美を希求して生れる哲学、科学、宗教、道徳、芸術、美術などの精神的所産であり、この小さなギャラリーの空間で多面的な文化の一端に触れ

ながら心のときめきを味わえる場として開放しております。

尚、この小さなギャラリーの名は地名でもある、「富神台」から「ギャラリートガミ」と申します。当社へお越しの際はご案内させていただきます。



ギャラリー TOGAMI

今後の製品開発の方向性をお伺いいたします。

社会的ニーズも機能だけでなく景観性を加えたものへと変わってきており、本物指向の中でコンクリート製品にどの様に景観性を加味していくか研究の必要があると思います。コンクリートと他の素材との複合製品等、付加価値をどの様に高めていくか、この問題は休日増や週休2日制への移行が急激

に進んでおり、人件費のコストアップにもろにかぶさってくることから高付加価値の製品開発を急がなければならないと考えております。

御社の現在・将来における 経営課題はなんですか。

なんといっても人に関することですね。

人手、人材、人財と企業の発展は人がどれだけ貢献するかによるものと思います。

人の集まる企業、人が育つ企業、人が活躍する企業、これは現在も将来も変わらない経営課題と考えております。

貴重なお時間をさいいただき、また素晴らしいお話をありがとうございました。 [K.O.]

(会社概要)

創 立	昭和36年3月
代表取締役会長	千 歳 栄
代表取締役社長	新田 泰三郎
資 本 金	7,000万円
売 上 高	30億円
従 業 員 数	135名
系 列 会 社	11社
本 社 所 在 地	山形県山形市富神台19番地



お釜(蔵王)

支部代表挨拶

全国のNEP工業会の皆様、お元気でお越しの事とお喜び申し上げます。

中日本支部は皆様ご承知の通り東海北陸分会、近畿分会、中四国分会と地理的にも、物理的にも、風土的にも異なる三分会で運営がなされて居ります。然し乍ら、会員各社は一つの目標、New Engineering, Progressive. の目的で結ばれ、技術高揚、知識修得、精神修養等々頑張っております。

支部事業計画実施は毎年支部の役員の皆様を始め会員の皆様と協議実施をして居りますが、年々生産技術、施行方法等々は超速のテンポで進み、昔は十年一昔と云って居りましたが、今月では三年前の事柄は一昔になってしまいました。

それに追打ちを掛けますのが、人手不足、労働時間、休日の諸問題等々……。これらを解決するためにはと中日本支部では、地域性の異なる3分会の共通事業として、平成2年度は中堅管理製造者を対象とする実務的研修会を平成2年9月5日より7日の三日間、京都府立ゼミナールハウスで研修をして戴きました。会員26社、全社参加され、実のある研修会でご好評を戴きました。

平成3年度も全社対象の事業をと、6月28日、29日、スタッフ研修会を瀬戸内海孤島で、7月11日、

中日本支部代表

大嶽 嵩



12日、幕張メッセで開催されている「ジャパストーンフェア91」の見学会。

そして平成2年度に引続き会員全社のスクール、(コミュニケーションをテーマに職務役職を問わず40才以下の会員を対象とするスクール)を9月12日、13日、14日の3日間を兵庫県三木市グリーンピア三木にて職場におけるコミュニケーションの善し悪しが、企業の成長を左右する重要な要素であり、職場における生産的なコミュニケーションと人間関係、コミュニケーションを意識的に身につける実習等により「自分自身を知ること」を体験実習をして戴きました。この様なスクールの実施により、会員各社の団結、共通意識の高揚が出来ました事は、ここに改めて、役員の皆様を始め、会員の各社にお礼を申し述べると共に全会員の皆様の今後共のご指導をお願い申し上げます。

ジャパストーンフェア見学

「21世紀に向けて石材関連産業の活性化と石材需要の再発見をめざし、業界の振興と発展に資することを目的とし、国内外より出展される日本初の石のワールドフェア見学会が中日本支部会員11社16名の参加により、7月11・12日に開催されました。

近年、日本の石材業界は著しく活発になり、マーケットの拡大に伴い輸入量も増加しています。1989年の大蔵省通関統計によると、大理石の原石や板材の輸入額は216億円、花崗岩も原石や板材製品などは925億円となり前年度の30%増加、この増加率も昨年、

大嶽 利彰



本年ともに続いているよう思われます。

本年NEP工業会においても、景観商品の製造方法の研究(技術部会)・景観商品の販売方法の研究

(営業部会)がテーマにされているよう、会員各社では次々と石材との複合製品が生まれています。

11日夕方、都内のホテルにて集合の後「日本橋の上」にて食事、ここでは情報交換のみならず、話し家呼び小唄を通じて江戸の伝統文化を満喫した後、翌日JRにて幕張メッセへと向かいました。出展社数367社、出展国23ヶ国、数々の原石のみならず、彫刻品、モニュメント、また、加工用機械、コンピューター、そして施工用各用品、関連製品まで会場には溢れんばかりに展示され、入場者数は3万人を越え、参加者一同各々の感性のもと熱心に見学しましたことを御報告申し上げます。



NEP中日本スクール

9月12日(木)~14日(土)、昨年に引き続き2度目のNEP中日本スクールを開催致しました。昨年は製造分野の現実と未来像に焦点をあて、時間制限なしのグループ・ディスカッションとその発表会を中心としたスケジュールで、スタッフの意図通り睡眠不足・疲労困憊の参加型セミナーとなりました。今年は体験型をやるとうことで、最近注目を集めている、育訓練ゲームを導入、ゲーム的な演習の中で体験を通して参加者が気づくことをねらいとしました。準備段階ではスタッフ一同が瀬戸内海の孤島のセミナー・ハウスに合宿し、自ら各種のゲームを体験し、独自の研修プログラムを組み上げました。



衣笠 仁浩



どこの企業においても問題となっている〈コミュニケーション〉をテーマに、自己表現と人間関係にマトを絞り、参加対象は部門を問わず40才以下としました。(その結果、41才以上の一部の方には年齢差別と恨まれましたが……)

同様の演習を体験する可能性のあるすべてのNEPメンバーのために、その内容を秘密にしておくように受講者の方にも言い渡してある関係上、スタッフの私から内容を語ることはできませんが、少しだけそのさわりを紹介します。

初日は受付と同時にポラロイドで写真撮影、ごく簡単な(約5分)イントロダクションのあと、いきなり演習に入っていきます。初日のスケジュールは全く公開しておりませんでしたので、いったい何が始まったのか、この後何が起こるのかまったくわか

NEP中日本スクール

らないまま、演習が続いていきます。受講者の表情は徐々に不安・狼狽・緊張が増して行き、スタッフとしては期待以上の反応を得、内心ワクワクしておりました。(受講者のみなさん、ゴメンナサイね)夕方6時頃になって、ようやくオリエンテーション。そして、今日はこれで終わりかと思うや否や、最終の演習である「コミュニケーション演習」が始まります。初日の演習の中で最も盛り上がったのが、この演習だったようです。



2日目は午前中に、コンセンサスによる集団決定の演習、午後には岩倉米作講師をお招きしての「交流分析セミナー」を開催、対人関係の基礎として、自分自身を知ることを経験学習しました。とてもリラックスした温かい雰囲気の中、多くの受講者が自分自身に気づく感激を味わったようです。

いよいよ最終日は、デール・カーネギーのインストラクターでもある長尾晃先生をお招きして、総まとめの特別講演として、「人生は人間関係と自己表現」という講演を聴きました。豊富な人生経験をベースに、たいへんわかりやすくコミュニケーションを中心にまとめて頂きました。

体験学習ということと、参加者の年齢が近いということから、初対面の参加者がとてもうちとけることができ、セミナー終了後も続くような人間関係もできあがったようです。みなさんのご協力のおかげで、期待以上の体験型のセミナーをつくりあげるこ

とができました。スタッフの一人として、全てのスタッフ、そしてお手伝い頂いたアシスタントのみなさん、また快くその派遣を承諾頂きました上司の方々・職場のみなさまに厚く御礼申し上げます。そして、受講者のみなさんを不安にさせたり狼狽させたり、緊張させっ放しでしたこと、この場をお借りして、おわび申し上げますとともに、それらを通してともに素晴らしい体験ができたことを深く感謝致します。ありがとうございました。

自己改造法(案) 自分との闘いの10のポイント

1. 自分の前進を止めているのは、誰でもない、この自分なのだ。
2. 心を開け。さもなければ、何も見えない、聞こえない、感じない。そして何も考えられない。
3. 実行の中でのみ学問がある。行動に移さなければ学問ではない。行動は真の力を創する。
4. 自己表現能力の強化を計れ。その上手下手が人生を決める。
5. 人を変えようと思ふな、先ず己を変えろ。
6. 怒りは敵、腹立ちは百害あって一利なし、と肝に銘じよ。
7. 一流人を志せ。一隅を照らすものが国の宝だ。
8. 常に自分の殻からの脱皮を計れ。自我の虜になるな。
9. 命燃やせ、時間は命だ。人生限りあり。
10. この世で一番すばらしい財宝はあなたの心の中にある。一番重要な人物はあなた自身なのだ。

NEP西日本 中国地区工場視察 レポート

去る8月28日より3日間の日程で、NEP西日本の工場視察研修が実施された。今年で5回目を数える工場視察は、毎回積極的な会員各社の参加により益々盛り上がりを見せているようである。

今回は、中国地区4社の工場視察で、7社17名の参加であった。初日は中国地区で建材の総合メーカーとして手広く事業を展開されている株式会社フジタ建材の系列会社である藤田建材工業株式会社であった。

藤田建材工業株式会社は、工場の中央を河川で分断されていることから、第1工場、第2工場という工場それぞれ別々のJIS認可を得なければならないという珍しい工場形態となっていた。

生産品目は、中電工の専用製品といわれるハンドホール、フリームの管台、現場打用の特注溜樹、マンホール、U型側溝等である。特にU型側溝については、ライン化により効率の高い製造が行われていた。

この工場の特徴として、同業他社から敬遠されつつある小物製品を逆に専門的に製造するといういわば隙間製品の製造形態を取られているところにある。又、より品質の高い製品を造るという方針により、完璧な補修が施されている。これらの特徴を活かすことにより、価格に於いても他社に比べて比較的高い価格で取引が行われている。社長の「誇りをもって小物を造っています」という言葉から、製品の品質としっかりした生産計画に並々ならぬ自信が伺える。今日、大型化が進む中こうした逆手をとって立派に経営をされている藤田建材工業の存在に各社メンバー、一様に驚きと関心があったように思われる。

研修2日目は積極的な設備投資により近代的な設備を導入されている出雲コンクリート工業株式会社の世羅西工場及び山陽ブロック工業株式会社の福山工場であった。

広島県の北部にある出雲コンクリート工業株式会社の世羅西工場は、平成元年度より工場建設が始まり、第3期工場のインターロッキング工場が今年完成し、全体的な操業が開始されたばかりの新しい工

場であった。インターロッキングをはじめ大型製品、カイザー板の各設備は効率の高い近代的な設備であり、非常に先進的な会社の印象を受けた。特にカイザー板の設備については、本格的なFA化がなされコンピューターによる型枠(ベッド)へのスミ出し、



磁石による加工型枠のセッティング等、他には見られない新しい設備であった。この工場は、ドイツのカイザー社との技術提携を結んでいるということから、今回の視察においては写真撮影が禁止された点が少々残念であった。その他工場内で気がついた点として、設備機械の片隅に一冊のノートが掛けてあり、「気が付きノート」と書かれていた。これは、作業中に不便を感じた点、機械の調子が気になる場合等、作業者がいつでも気軽にメモをとれるようなシステムになっていた。そして管理者は、定期的にノートをチェックし、可能な限り積極的に改善していくようになっている。いわゆるTQCの一貫と思われる。改まった改善提案用紙に記入するよりは、気軽に感じた事を書ける点では良案ではないかと思われる。

真新しい設備と共に目を引かれた点として、事務所の前に並べられたさまざまな製品の展示コーナーがあった。一般の来訪者にも一目でその利用法あるいは景観の状況がわかるようにきれいに並べられていた。環境製品への力の入れようを感じると共に、

展示スペースを楽々と取れる工場の広さに感嘆した。山陽ブロック工業株式会社の福山工場は、主として河川用積ブロックを製造されている工場、月産約800トンとなっている。ここでは、ラインのスプレ一式の自動マーカに興味を引かれた。

ブロックの全面模様として、粗面タイプが2割をしめているということであり、乱反射防止と共に景観を重視される現場が多くなってきたといわれる。

最終日の中国コンクリート工業株式会社の建部工場は、月産約7,000トンの規模の大きな工場であり、トヨタライン（2基）及び簡易ライン、門型クレーン（10トン）等の設備により、小物から大型製品まで多品種の製品を製造されている。“注文があれば何でも造ります”と副社長の言葉どおり現在約3,500品種の製品が製造されているということである。さらにストックヤードには特注加工品が所狭しと並べられており、中国コンクリート工業の営業の間口の広さが伺われる。一般的には、多品種の製造態勢は設備あるいは人的コストが高くなる点や個々の製品の一次的な多量生産の対応に苦慮する等むづかしい点が多いといわれているが、よほどしっかりした生産計画が練られているものと思われる。

3,500種類にもおよぶ製品群の営業にはそれなりの苦勞が伴うと思われるが、カタログ及び定価表にそ

の工夫がなされていた。カタログと定価表を一体にすると共に、できるだけ内容を簡略化し、製品を捜し安く工夫されている。但し、価格の変動及び製品の種類の増加に伴う再編を毎年行う必要ある点は、やや不経済を感じないでもない。しかし、今後の自社のカタログ作成に大いに参考になったのは確かである。

今回の3日間の工場研修は、それぞれ違った特徴をもった工場が選定されており、設備の工夫、製造品目、製造態勢等においてバラエティに富んでいたように思う。研修参加の各社それぞれの分野において多くのヒントを得られたのではないかと思う。

4社の工場を視察し全体的に感じることは、時代の流れに伴う人手不足とコストの低減に関わる設備の改善が業界の一致した流れとしてひしひしと感じられる。又、今後の製品のありかたとして、機能性のみならず、景観を重視した多岐に渡るニーズへの対応が重要なポイントとなってきているのは確かなようである。

最後にNEP西日本各社の今後の発展を願うと共に、今回の研修のために労をとって頂いた団長、副団長、並びに、事務局長の諸氏に深く感謝を申し上げます。

個性的で多彩感覚に富んだ景観を要求される様な状況となり、これらのニーズに対して、当協会のプレキャストコンクリートL型擁壁としての価値が広く認識されるようになってまいりました。この様な事情を充分理解されて、設立当初から建設省の担当部署の御親切な御指導を頂きながら、当協会の主目標であります社団法人化に向けて努力致しております。一方、認定商品の範囲を宅地造成等規制法第15条に

全国宅地擁壁協会だより

運営委員長
小川 真弘



全国宅地擁壁協会は、皆様良く御存知の通り本年10月で設立満5周年を迎えました。設立当初99社であった加盟社が、本年10月現在183社とほぼ倍増致しました。

我が国の住宅事情は、土地の高騰による取得難から比較的安く購入出来る傾斜地での宅地造成工事が行われる傾向となり、これに従事する労働者の不足が顕在化し、又国民の多様化する価値観から、より

全国宅地擁壁協会だより

とどまらず、建築基準法第38条に該当する認定をも取得し、全国すべての宅地造成地に於ける建設大臣認定商品として、公式に採用されるための努力を致しております。

現在、当協会は理事会を最高意志決定機関と位置づけ、これに全国10支部と6委員会で編成されております。6委員会とは、需要委員会・技術委員会・品質管理委員会と10月の理事会で承認を得て正式に発足致しました運営委員会と広報委員会の常設5委員会と社団法人化に向けての特別委員会として、設立準備委員会とに分かれております。では、ここで委員会の最近の活動内容について御報告致します。

需要委員会では、大別して3分野の活動を致しております。

- ① 経済調査会並びに建設物価調査会に対し、掲載欄の拡大を図るために、積極的に活動し、来る11月号より1ページの枠をほぼ確保しました。
 - ② 開発営業部員を対象とした、技術講習会の開催を企画し、実施致します。
 - ③ 実績調査、嗜好調査の実施及び集計、統計表を作成します。また、様式を作成し、各機関に調査依頼をします。
- 技術委員会・技術研究所（ハイタッチウォールの認定を得るための諸事業活動をしています。）
- ① 建築技術所に於ける公開実験の結果に基づく、認定申請書類提出に必要となる、製品の形状、寸法の決定、配筋図及び歩掛り表の作成、関係諸機関との打合せ、宅防委員会への提出書類の作成等の諸業務の遂行。
 - ② 宅地造成等規制法、第15条の認定申請手続。
 - ③ 建築基準法、第38条の認定申請手続。
 - ④ 技術講習会の企画、実施。

品質管理委員会、加盟各社、各工場審査、可否の決定。

- ① 毎年、全国良の加盟工場のうち、40社対象に工場審査実施中。
- ② ハイタッチ、ウォール、工場審査基準の作成。
- ③ 外部の独立した専門委員会の設置の検討。

運営委員会

去る10月3日の理事会に於いて正式に認定を受けるも、会長による委員の任命は来る12月11日の次回理事会後に行うことになった。

事業内容としては、当協会の予算、決算の審議、答申、並びに各委員会業務の運営状況の調査、確認、報告。

広報委員会

運営委員会と同様、12月11日以降に正式活動となる。

事業内容としては、すべての報告活動を実施する。

- ① 機関紙の発行
- ② 広告業務
- ③ 刊行物出版
 - イ、認定製品図集
 - ロ、製造仕様書・築造仕様書
- ④ その他広報活動に関する事業

法人化設立準備委員会

当協会の設立当初からの悲願であります、社団法人化と達成する為に、設置されたのが法人化設立準備委員会であります。

建設省建設経済局民間宅地指導室と住宅局建築指導課の担当部課との指導を得て、申請に対する必要な書類の作成、まとめ、関係部署と調整作業等。

現在、提出書類として、取りまとめた事項としては、

- ① 設立趣意書(案)
- ② 定款(案)
- ③ 事業計画(案)
- ④ 予算(案)
- ⑤ 会員名簿
- ⑥ 設立者及び後員名簿
- ⑦ 事務所の賃貸契約書 等

今後、検討すべき事項としては

- ① 役員の就任承諾書
- ② 役員の履歴書
- ③ 財産目録
- ④ 寄附書
- ⑤ 設立総会(発起人会)議事録
- ⑥ 任意団体での過去3か年の書類
- ⑦ 残余財産の寄附書
- ⑧ 運営規則
- ⑨ 解散総会議事録
- ⑩ 設立代表の権限を証する書類

以上を来る12月末日迄に書類として、取りまとめる作業を残しております。

現時点での推測ですが、順調に各機関でのチェックが完了されれば、平成4年2月乃至、3月には、晴れて社団法人として、正式に許可されるものと思われれます。

尚、当協会の今後の活動の目的を将来的には、道路用に使用するL型擁壁にも設定化を計り、合わせて道路用資材としての使用を確立する為に独立した社団法人を計るまで、頑張るつもりでありますので、皆様、是非御後援を御願い致します。

郷里の自慢コーナー

沖縄建設工業株
製品部 部長代
屋 良 利 光



琉球の泡盛

前日、事務局より、沖縄の名物、名産等について原稿執筆の依頼が有り、安請合をした事を反省しながら筆を取りました。

当県の名物、名産は、空と海の青さ、夏の痛いくらいの強い陽陽し、さとうきび、パインナップル等々が掲げられますが、今回はビール一杯で夕焼け色になる下戸の小生が、琉球の泡盛について紹介して見たいと思います。

泡盛は、琉球王朝より徳川将軍家へ献上された記録が残されており、物の本によると、1670年頃が起源ではないかと記されております。

原料は清酒と同じく米を使いますが、本土産米では無く、タイの碎米が用いられます。

その独特の風味はタイ米と黒麹菌とによって練り上げられるもので、沖縄の高温多湿の気候ならではの産物と云えましょう。

琉球王朝時代、泡盛造りは、王府より、首里城周辺の限られた地域で、焼酎職として認められた者のみが造る事を許されて居たとの事ですが、現在では県内各地で造られており、銘柄も七十数種に及んでおります。

小生の知己に、造酒屋（沖縄では醸造元の事を云う）の子息がおります。

その造酒屋で造られた酒に「時雨」と称する酒が有り三年前に、モンドコレクションで金賞を受賞した一品で有ります。その点からしても、泡盛は国際的にも通用する酒であることが、御理解いただけると思います。

泡盛には、新酒と古酒（クースと読む）が有り、泡盛の良さを味わうには、古酒が一番です。

古酒とは、醸造後、三年を経過した酒の事を云い古酒に仕立てる為、南蛮甕に入れられ熟成させます。

南蛮甕には酒を呼吸させる、メカニズムが有るとの事であり、甕の中で、五年十年と秘かに呼吸し、

時を待ち古酒となるのですが、その過程においては仕次とか複雑な調合が有るとの事です。

古酒は、無色透明の新酒とは異なり、多少琥珀色を帯び、その香りは嗅覚をくすぐります。

前記しました「時雨」の造酒屋には、戦禍を免れた140年の古酒と、80年の時を経た古酒が約500年前の南蛮甕に秘蔵されており、80年物の古酒を試飲した、先輩によると、まろやかで、味はコニャックに近いとの事。

昭和40年後半まで泡盛は地酒的な存在でしたが焼酎ブームの波に乗った事も有って、最近ではヤング層にも人気があり広く普及しております。

地方の名産はその産地で味わうのが一番との事。沖縄にお越しの際は、是非、泡盛を御賞味下さい。



編集後記

今年もボジョレーヌーボーの季節がやってきました。ボジョレーヌーボーとはフランスのボジョレー地方で9月から10月に収穫した葡萄で造り、2ヵ月足らずで出荷する新酒の赤ワインのことです。出荷解禁日はフランス政府によって11月の第3木曜日の午前0時と規定されており、日本は時差の関係でフランスよりも8時間早く、つまり世界一早く飲めることもあって近年ブームを巻き起こしつつあります。一年間の風雨に耐え、太陽や土の恵みをいっぱいを受けた葡萄で作られた、その年度のワイン全体の出来不出来をボジョレーヌーボーは占めます。ただし皆さん、ボジョレーヌーボーはあくまでも新酒であって、赤ワインが本来持っているコクとかコシとかはまだ出来ていません。女性に例えるとまだ小学校を卒業したばかりというところですよ。本気でこれが素

請らしい赤ワインだなんて思い込まないでください。あくまでもお祭り用のお酒なのです。さて今秋、NEP工業会でも本年度の収穫で楽しくタメになるNEPレポートヌーボーを作りました。ヌーボーのお味は如何でしたでしょうか？大地や太陽の素晴らしい恵みを感じさせただけでしょうか？それとも、バサバサと味気ないものだったでしょうか？私は今年のヌーボーの出来も素晴らしいものに仕上がったと思います。赤ワインは製造されてから6年目ぐらいから飲み頃とされています。本年度のヌーボーの出来を見る限りでは、NEP工業会で収穫されたモノ（情報）は各社のボトルで21世紀に向けて熟成してゆき、香り高く豊富な赤ワインのごとき成果が期待できることと思います。 [K.O.]